

タイトル：『汐製菓会社の新作57
マカロン2』

登場人物

汐（しお）

30代。汐製菓会社の社長。奇想天外な発想を次々に商品化する「天才」。常にハイテンションで、周囲を巻き込む快活な性格。

塩田（しおだ）

30代。汐の秘書。真面目で慎重だが、実は隠れたお菓子マニア。社長の暴走に振り回されるも、その熱意に対抗しきれない。

国内のお客さん1（主婦A）

国内のお客さん2（サラリーマンB）

国内のお客さん3（女子高生C）

外国人バイヤー（アメリカ）

外国人バイヤー（フランス）

外国人バイヤー（中国）

シーン：オフィス・新商品企画会議

（オフィスの中。ポスターには奇抜なお菓子たちが飾られている。「納豆プリン」「たこ焼きチョコレート」などの奇抜な商品名が目飛び込んでくる。机に足を乗せて、猫動画を見ている汐）

汐

「くっくっく…これは面白いぞ！」

塩田（書類を抱えながら近づいて）

「また新しい発想ですか、社長？」

汐（ニヤリと笑って）

「その通り！次のヒット作はこれだ…梅昆布茶マカロン！」

塩田（驚いて）

「梅昆布茶！？マカロンって、フランスのおしやれなお菓子ですよ？なんで梅昆布茶…。」

汐

「だからこそ面白いんじゃないか！フランスのエルガントさと、日本のしょっぱさを融合するんだよ！」

塩田（困惑して）

「そ、それは分かりますけど…お客さんが食べる時のことを考えてください。甘いのかしょっぱいのか、どっちなんですか？」

汐

「それが新時代のフュージョン！『甘くてしょっぱい、新体験！』ってキャッチフレーズでいこう！」

塩田（ため息）

「また振り回される予感しかしません…。」

シーン2：工場・試作の混乱

（汐製菓の工場。作業員たちが困惑顔でマカロンの試作を進めている。梅昆布茶の粉末が次々と生地投入され、混ぜられていく。）

工場長

「塩田さん、これ…本当にこのレシピで大丈夫なんですかね？こんなマカロン、誰が食べるんだか…。」

塩田（肩を落としながら）

「私も分かりません。でも社長が『いける』って言ったんですから…やるしかないんです。」

作業員1（鍋をかき回しながら）

「これ、ほんとに甘くなるのか？なんか、しょっぱそうな匂いがしてきたけど…。」

作業員2

「なんか酸っぱいような…梅昆布茶の風味が強すぎる気がするぞ。」

塩田（心配そうに鍋を覗き込む）

「うわ…匂いが…。とにかく、一度焼き上げてみてから判断しましょう。」

（オーブンの中で焼き上がっていくマカロン。美しい見た目だが、漂う異様な匂い。）

塩田

「うーん、見た目は普通のマカロンなのに…匂いが昆布茶のそれだわ…。」

シーン③：試食会・国内編

（汐製菓のオフィスにて、新作マカロンの試食会。汐が自信満々にテーブルに並べた梅昆布茶味のマカロンを前に、社員や試食に招かれたお客さんたちが集まる。）

汐（大声で）

「さあ、皆さん！これが新作の7番目の商品だ！食べてみてくれ！」

（お客さんたちは恐る恐るマカロンを手に取り。国内のお客さんたちが登場。）

主婦 ▶

「マカロンだ！おしゃれね〜。でも…この匂い…え、昆布茶の匂い？変わった味なのかしら。」

サラリーマンB（ひょいと食べて）

「んん？…なんだこれ！最初甘いと思ったら、次にしょっぱい昆布茶の味が襲ってきた…。」

女子高生O（友達と一緒に笑いながら）

「えーこれやばくない！？インスタ映えしそうだけど、味がね…。でも、この見た目で昆布茶味ってウケるかも！」

（お客さんたちがざわざわし始める。汐は全く動じず、ニヤニヤしている。）

塩田（小声で汐に）

「社長、やっぱりちよっと反応が微妙ですよ
…。」

汐（笑いながら）

「微妙ってことは、注目されてるってことだよし、次は海外に売り込むぞ！」

シーン④：展示会・外国のお客さん登場

（国際展示会の会場。各国のバイヤーたちが
出店する中、汐製菓のブースには「新作㍻
マカロン㍻㍻梅昆布茶味㍻」と大きく書か
れたポスターが掲げられている。汐と塩田が
笑顔で接客をしている。）

汐

「さあさあ、ここにしかない新体験！梅昆布
茶味のマカロン、ぜひ味わってください！」

（アメリカのバイヤーが興味深そうにブースに
近づく）

外国人バイヤー（アメリカ）

「これはなんだ？マカロンと…昆布茶の味？
興味深いな。」

塩田（日本語で対応）

「はい！こちらは日本独自の梅昆布茶を使っ
たマカロンです。ぜひお試しください！」

（バイヤー、マカロンを一口かじると、思わず
顔をしかめる）

外国人バイヤー

「甘い…けどしょっぱい？これは…新しいけど、
ちよつと驚いたな。」

汐（満面の笑みで）

「驚きこそ成功の第一歩！これが次のブーム
になるはずです！」

（そこにフランスのバイヤーが登場）

外国人バイヤー²(フランス)

「マカロンといえばフランスの誇りだ。どれどれ、日本のマカロンはどうか…?」

(フランス人バイヤーがマカロンを手に取り、一口かじる)

外国人バイヤー²

「モン・デュー！甘さとしょっぱさが混ざり合っ
て…あり得ない！だが…何かクセになるか
も。」

(次に中国のバイヤーが興味を示す)

外国人バイヤー³(中国)

「これは…奇妙だが面白い！梅と昆布茶、そ
してマカロンの組み合わせとは…中国でも流
行りそうだ。」

汐

「ほら見ろ、塩田！やっぱり注目されてるじゃ

ないか！これが世界に通じる新しい味なんだ！」

塩田（苦笑しながら）

「反応が良いんだか悪いんだか…。」

シーン⑤：展示会の混乱と成功の兆し

（汐製菓のブースには、興味津々な人々が続々と集まる。バイヤーたちの口コミで話題が広がり、会場は大混乱。）

外国人客①（アメリカ）

「梅昆布茶味のマカロン！？これは試さなきゃ！！」

外国人客②（フランス）

「奇妙だけど、おいしいかもしれない…。」

外国人客③（中国）

「新しい味だ！これはヒットする！」

(汐はブースの中央で大声をあげる)

汐

「さあ、梅昆布茶マカロン！世界が注目しているぞ！」

(突然、一人のアメリカ人バイヤーがブースに駆け寄ってくる)

外国人バイヤー

「ニューヨークの店に置きたい！大量に注文したいんだ！」

塩田(驚いて)

「本当に？ニューヨークですか…？」

汐(得意げに)

「そうさ！ニューヨークから世界中に広めるんだ！」

シーンの…結末・次なる挑戦

（オフィスに戻った汐と塩田。大量の注文書
が積み上がり、スタッフたちが慌ただしく動い
ている。）

塩田

「社長…結局大成功ですね…。ニューヨークに
大量の注文が入るなんて。」

汐（笑いながら）

「だから言っただろ？挑戦することが大事な
んだ。次はもっとすごいものを作るぞ！」

塩田（疲れた様子で）

「え、次って…またですか？」

汐

「そうさ、次はワサビマシユマロだ！どうだ、面
白いだろっ？」

塩田（驚愕）

「ワサビ…マシユマロ！？それだけは勘弁して
ください…。」

汐（笑いながら）

「世界は面白いものを待っているんだよ！さ

あ、次の挑戦だ！」

（スタッフたちが笑いながらそれぞれの仕事に戻り、汐の新しいアイデアが再び始動する。）

塩田（小声で）

「やれやれ、また大騒ぎになりそう…。」

（賑やかなオフィスの中で、塩田が再び社長の奇想天外なアイデアに向けて動き出す。）

終わり